

第2回 横浜市鴨池公園こどもログハウス指定管理者選定委員会会議録

日 時	令和3年9月10日（金）9時30分～12時00分
開 催 場 所	都筑区役所3階 研修室
出 席 者	中津委員長（関東学院大学建築・環境学部建築・環境学科 准教授） 梶山委員（都筑区主任児童委員連絡会 副代表） 才野委員（税理士） 辻田委員（都筑区連合町内会自治会 副会長（福祉保健担当）） 宮崎委員（都筑区PTA連絡協議会 会長）
欠 席 者	
開 催 形 態	一部非公開（傍聴者2人）
議 題	1 会議の公開・非公開について 2 応募資格等の確認について 3 選定方法の確認について 4 面接審査 5 採点審査（指定候補者の選定）
決 定 事 項	1 応募資格等の確認及び選定方法の確認、並びに応募団体の面接審査におけるプレゼンテーション及び質疑応答部分は公開とし、指定候補者の選定に係る採点審査は非公開とした。 2 特定非営利活動法人つづき区民交流協会を指定候補者に決定した。 3 委員会の選定結果について、都筑区長に報告することとした。

審 議 内 容	<p>1 会議の公開・非公開について 応募資格等の確認、選定方法の確認、及び応募団体の面接審査におけるプレゼンテーション及び質疑応答部分は公開とし、指定候補者の選定に係る採点審査は非公開とした。</p> <p>2 応募資格等の確認について 事務局より応募のあった1団体が当公募の欠格事項に該当しないことを報告した。</p> <p>3 選定方法の確認について 事務局より採点方法、最低制限基準点及び選定方法についての説明を行った。</p> <p>4 応募団体の面接審査 【特定非営利活動法人つづき区民交流協会】 特定非営利活動法人つづき区民交流協会によるプレゼンテーションが行われ、以下のような質疑応答があった。</p>
---------	---

(委員) ヒヤリハットの共有に関して、具体的な事例はあるか。

(回答) 最近の事例として、利用者が階段から転落する事故があった。ヒヤリハット事例としてスタッフ間や館長と共有するとともに、来館者に対してさらなる見守りのお声がけを行うようになった。

(委員) ヒヤリハットについて、利用者に対するフィードバックだけでなく、施設的设计などに関する、行政に対する要望や働きかけも行っているか。

(回答) 直近では、来年度実施が予定されている大規模修繕のための事前調査の際に、階段に手すりを増設することなどを市に対し提案した。
このほか、階段の転落対策として、マットを厚めに敷くなどの工夫をしている。

(委員) 貴法人は認定特定非営利活動法人に認定されているが、昨年度の法人に対する寄附は何件程度あったか。

(回答) 令和2年度は200件余りの寄附を受けている。こどもログハウスをはじめとする利用料金のない施設は特に、利用者や地域の方から温かい言葉とともに寄附を頂いている。

(委員) 貴法人は、指定管理料の収入にあたって、法人税法上の税金免除を受けているのか。

(回答) 免除はなく、法人税、事業税及び消費税を毎年お支払いしている。

(委員) こどもログハウスの収支決算書における協会の本部経費について、年度によって変動があるが、分配の基準があるのか。

(回答) こどもログハウスのほか、協会で運営する施設全体の労務や経理を管理するための費用として、各施設から事務局へ事務経費を計上している。計上する額は、協会全体の収入に占める各施設の収入の割合により算出している。
ただし、こどもログハウスに関しては、これまで収支決算が黒字になったことがないため、収支不足分については事務局からの持ち出しにより賄っている。

(委員) 館長の給与はこどもログハウスの収支上には計上されていないのか。

(回答) 館長と協会の事務局長を兼務しており、給与は事務局からでている。
よって、こどもログハウスの収支上には計上されていない。

(委員) 施設がかなり古いように見えたが、建て直し等の計画はあるか。

(回答) 令和4年度に横浜市による大規模修繕が予定されている。

(委員) コロナ禍の運営で気を付けていることはあるか。

(回答) 3密を避けるため、館内の入場者数を制限するとともに、密になりやすく狭い場所については、利用制限を行っている。

(委員) そのような中でのイベント開催は難しいか。

(回答) 昨年度の9月からイベントを再開しており、屋外で実施するイベントや募集人数が少ないイベントなどについて、感染対策に留意しながら実施した。

(委員) スタッフは現在何名か。また、スタッフの採用に際して基準や重要視している部分は何か。

(回答) 現在12名のスタッフがいる。

採用に際しては、どのように利用者や保護者と接するか、という点で人柄を最も重要視している。また、公の施設であることを理解し、公平公正な視点があるか、ということを見ている。

(委員) 応募書類の中で、研修計画に係る時間が明記されていなかったが、実際にはどの程度の時間をかけて研修を行っているか。

(回答) 例えば、人権研修であれば、事務局長から全施設の館長向けに1時間程度の研修を行い、その後各館長から施設のスタッフ向けに30分程度の研修を実施している。

また、そのほかにも、1年に1回全施設のスタッフが集まり、グループワークなどのスタッフ研修を実施し、施設の垣根を超えた交流を行っている。

(委員) コンプライアンス研修やコーディネーター研修も同様の方法で実施しているのか。

(回答) コーディネーター研修は、各施設の館長、副館長や将来的に館長などの役職を志望する職員などを対象に実施している。コンプライアンス研修は人権研修と同様の方法で実施している。

(委員) 利用者が怪我をしたときなどの危機管理研修はどのように実施しているか。

(回答) AEDの使用方法等は、消防から講習を受けている。

そのほか、マニュアルに沿った研修をスタッフ向けに実施したり、有事を想定した避難訓練なども行っている。

(委員) 開館時間中、保護者同伴でない子どもを含め、館内で遊んでいる利用者を把握できているか。また、連絡先が分からない利用者が利用することもあると思うが、有事の際にどのように対応すると想定しているか。

(回答) 施設は2階建てになっているが、常時2名いる職員の位置から利用者の様子を一目で見渡すことができる。

有事の際には、館内の小学生以下の子どもたちを地域防災拠点へ引率する。

(委員) 自宅の連絡先や住所が分からない子どもたちに対しては、どのように対応するのか。

(回答) 名前と学校名、学年は把握できるため、仮に事故などが起きた際に連絡先が分からなくても、学校を通して保護者へ連絡することができる。

5 採点審査

面接審査を受けて評価を行い、各委員の評価結果を集計した。

応募団体の評点は次のとおりであり、最低制限基準点の315点を超過していることを確認した。

団体名	評点/満点
特定非営利活動法人つづき区民交流協会	441点/575点

(審査講評)

- これまでの経験から、安心安全に施設を利用するための土壌ができているとともに、安定した管理運営を期待できることから、今後も指定管理者として管理運営を任せて問題ないと考えられる。
- 限られた予算の中でも工夫しながら運営しており、課題が見つかった際には、対

	<p>策をスタッフ間で共有し、利用者へもフィードバックを行うなど、安心した施設運営につながる取組みを行っている。</p> <ul style="list-style-type: none"> ・小学校や地域団体など、周囲の組織との連携が図られている。また、親子向けのイベントのほか、小学生の利用者増のための取組みなど、自主努力する姿勢が評価できる。 ・全スタッフに対し、救急講習を行っていることも評価できる点である。 ・財務状況のうち、施設のこれまでの収支について、決算書上は黒字に見えるが、これは本部からの補てんが計上されていることによるものである。一方で、法人全体の財務状況については、平成 30 年度から令和 2 年度まで正味財産が増加しており、現状では特段の問題は見られない。 ・公園の中の屋根のある施設という特性を活かしながら、今後も「子どもが遊ぶ場の提供」にとどまらず、地域との連携や多世代交流をさらに深めていくことを期待したい。 ・前期に引き続き、子どもたちが安心して遊べる施設運営を望む。
資 料	<p>(資料 1) 第 2 回選定委員会タイムスケジュール (資料 2) 評価・採点方法について (資料 3) 評点表 (資料 4) 採点審査について</p>